

・・・ はなの村の四季 ・・・

古い葉が新しい葉に推薦する「ユズリハの木」

小 関 栄

我が家の庭にはユズリハ(譲り葉、楨)の古木がある。面白いことに、毎年秋に落葉するが、すべてでなく半分だけ落ちるので常緑樹に見える。

毎年5月半ばに緑鮮やかに新芽を付けるが、次第に赤みを増して濃緑の分厚い葉になる。しかし、その年には落葉せず、2年後の秋まで残っている。

今年の新葉と去年の古い葉とが互いに重なり合い、古葉が次第に垂れ下がってきて、恰も、子(新葉)が育ってから親(古葉)が譲るように見える珍しい木、これがこの木の名の由来になっている。因みに中国名も交譲木(交譲木(Jiaorangmu))という。

また、この葉は裏が白くて、共に白髪になるまで夫婦が長生きするようという意味があり、縁起物として正月飾りにも使われている。

ユズリハの花は初夏に、新しい葉の根元に小さく咲き、晩秋には黒に近い濃紫色の小玉の実になる。この実は漢方薬として珍重される。

わが家の庭の木は植えてから百余年経つが、名前の謂れから見て、先代が次の世代へ円満に家督を譲ることを願い、植えたものだろう。「古に恋ふる鳥かもゆづる葉の御井の上より鳴き渡り行く」(万葉集)

(写真はわが家の庭の新葉の出、花芽も付けたユズリハの木、5/17撮影)



代々の 思い伝える ユズリハの木 淡水

緑肥用大豆「黒千石」種子をおわけします。

宮崎にお住まいの津野先生から先日「花の村の皆さんで活用して下さい」と「黒千石」が送られてきました。これは故橋爪哲也さんから津野先生に贈られたもので、津野先生が宮崎で大事に育てておられたものです。

この地方で「黒千石」はかつて「倉真千石」とも呼ばれ馬餌や緑肥に広く利用されていましたが、牛馬の減少や化学肥料の多投で栽培する人が減り今では種子も途絶えるような状況です。「黒千石」は繁殖力が強く、緑肥や草押さえなどに活用できます。私の手元にあります、足りなければ津野先生の手元にもありますので、希望者はどうぞお申し出下さい。

(藤本 080-5088-8275)